

秋も深まる候、拙宅に間近の銀杏並木も黄金色に染まるのだ。思索に耽るにふさわしい。

私は、かつて学習塾の校舎にこもっていた。学習塾という職場は、四季の移ろい体感できる。例年、イベントもカリキュラムもほぼ同じ。塾講師は、今年もこの問題の時節が巡ってきたか…と、グラフや図形に季節の到来を感受する風流人の集団なのだ。と、いいたいところだが、この時期、文豪のように感慨に浸っている場合ではない。

最後まで希望を捨てずにがんばれ！と心願したいが、実は直前期に飛躍的な大変身を期待して気張らないよう。むしろ失速が怖い。ちよっと前まで、もう少しで首位だ！今年こそ優勝だ！と高鳴っていたのに、結局3位にも遠い野球チームが悪しき好例だ。こんな事態は、実際に受験生にも見舞う。カむと焦る。ドタバタとペースが荒れはじめ学習姿勢も崩れてしまう。物理学的にも、のぼるのはエネルギーを要するが、転がるには力を抜くだけだ。

くれぐれも落ち着いて。現状維持で十分！くらい的心持ちがよろしい。呼吸が整い、結果的に鮮やかにライバルを抜き去りゴールテープを駆け抜けるかもしれない。

11月にもなれば、6年生の諸君は、志望校の決定を迫られるだろう。でも、慌てるなかれ。ムーヴを指南に？最後まで学校研究に励んでほしい。千葉埼玉であっても出願はまだ先。東京神奈川は1月の末に決断すればよいのだ。

とはいえ、何のビジョンもなければ、ラストスパート計画に迷う。志望別の対策をほどこす時期だからだ。せめて5校ほどに絞っておくべきだろう。シビアなようだが、この時期に夢物語は禁物。冷静沈着な判断を求む。首都圏には魅力的な私立学校が数多。恵まれている。「偏差値」を下げたからといって、この子の人生が終わり！なんてことはありえない。むしろ、高望みで最後の最後に挫折する方が物騒だ。成長期はこれからなのに。

さて、したり顔の「傾向と対策」の前に。賢明で誠実な私立学校は入試問題にメッセージを込めている。「こんな勉強したら合格できるぞ！ぜひ、受かってくれ！待ってるぜ！」と、爽やかにメッセージを送っている。まず、そのメッセージに応じてほしい。絶対行きたい学校なのに、難題で選抜するなんてヒドイ！などとスネてはいかん。私立学校はすでに宿題を与えてくれているのだ。入試当日は宿題の提出の日。ちゃんと宿題やってきたかな？と試しているだけ、と、とらえてみよう。精神論的な助言はお許しいただきたいが、志望校の先生が、どこかで諸君の3ヶ月間の生活をチェックしている、どの心づもりで過ごそう。志望校の先生が見ているのに怠けないだろう。「オイラちゃんと宿題しているよ！」と主張するだろう。入試の審査はもう始まっている。それが入試直前期の心意気だ！

紅葉の季節、 入試はもう 始まっているのだ！



ムーヴ編集部員M 元学習塾講師

あくまで編集部員の現場での指導経験を元にお伝えしています。ムーヴ編集部として違和感を覚える内容ではありませんが、必ずしも専門的な説と一致しているとは限りませんので参考までにお読みください。

「過去問」演習がイイカゲンではいかん！

すでに承知だと思いが念のため。いわゆる偏差値ランキングは入試の難易度を示す指針としては大枠として信頼性が高いと思う。それなりのデータだ。ただし、入試問題は、各校別。傾向も違う。ゆえに局面的には、模擬テストの結果がそのまま比例して、志望校の可否が決定するとはかぎらない。

そこで「傾向と対策」なるものが求められる。余談ながら、厳密に正確な日本語で記すなら「傾向に対する対策」だと昔から気になっていたが…。

われわれ塾講師が恐れていたのは出題傾向への極端な不整合だ。模試では口笛吹いて7割程度をゲットしていた生徒が、偏差値的に余裕の志望校の過去問で3割しかとれない。不穏だ。それは根本的な実力不足ではなく、「傾向」ととまどってしまったからだ。

さてさて、傾向と対策の要は過去問演習。毎年、騒々しく申し上げているが、過去問の扱いがイイカゲンなのだ。やった気だけで何の効果も得られていない。過去問を使った「傾向と対策」指導はプロフェッショナルの域。有能な学習塾や家庭教師の先生方に任せよう。小学生独自では無理難題。ご家庭の皆さんの素人(失礼！)指導も危うい。

でも、ウチの子やちゃんと対策しているのかしら？と不安だろうから、原則をお伝えしておこう。

そもそも、私は、過去問は演習目的ではなく対策を探るための精密検査だと考えている。データを収集するためのシミュレーション。ゆえに、正確な情報を得るために本番と近い環境で扱ってほしい。できれば実物の問題用紙が理想。今は、学校説明会で配っている学校も多いし、ホームページでダウンロードできる学校もある。問題は何ページか、余白はどれくらいあるのか、は得点に大きく関わる要素。それをあらかじめ知っておくだけでも立派な対策だと思う。

演習時は「70点取らなきゃ～(略)～だあ！」とその学校の合格ラインをオオゲサに宣言しておこう。実際の制限時間イッパイ使うこと。早く終わっても見直しする。制限時間は守る。ゆえに、過去問演習も監視が必要。それなりの緊張感のなかで解かせるべし。過去問は「できた/できない」をすぐに知りたいと思うが、1問ずつ正誤を確認するようなスタイルは断じてNGだ。さて、対策。

「合格点に届かなかったけど、計算間違いだもんねえ」などとイイワケ男子諸君には、喝っ！だ。本番ではミスらないのか！生涯イイワケばっかのオヤジになっちゃうぞ！と泣かせてしまう鶴亀。「合格点に届かなかったのは私の努力が足りなかったから…」と涙ぐむ女子諸君には、まず自己肯定だ！今を未来につなげ！と女子にはちょっと優しい？鶴亀。だって、過去問で可否が決まるわけではないでしょう。あくまで対策のための資料。できても、できなくても、前向きに検証してほしい。

私は、採点する前に、生徒と雑談していた。「難しかった？」「時間は足りた？」。彼らの回答に対策のヒントを見いだすからだ。そもそも子どもは表情で心情がわかる。落ち込んでいるのであれば、まず不安を取り除いてあげるべきだろう。それが対策の第一歩。ネガティブな印象を引きずると入試当日にトラウマがよみがえる。

原因検証本番。科学的に。具体的に。例えば、空欄が目立つのであれば、時間が足りなかったのか？難解だったからか？それが分析のはじめの一步。もし時間が足りないのなら、時間内に成し遂げるフィジカルなトレーニングや、あるいは、確実に7割を得るための問題選択・解答順など実践技も授けるべきだろう。「問題が配られたら、時間配分を考えましょう！」などという指導を聞くが、何をいつているのか！そんなことができれば苦労はない。この問題は5分で、この問題は10分でとリアルに伝える。国語だって長文を読む時間を予想できるだけでも、かなり気分が違う。イメージトレーニングに近いと思う。そのまま実行できないかもしれないが、意識付けのきっかけなのだ。やがて、自分で工夫するようになる。

対策は、分野的な観点が先行しがち。「この学校は、ここが出やすいよ～」と得意げな教師も散見される。そんな「ヤマはり」は無責任だ。キミは予言者か！そういわれても受験生は困る。それは「伝える」ものでなく「ほどこす」もの。授業中に志望校の傾向に添う問題を扱ったり、その子用のプリントをさりげなく渡したり、それがプロの仕事だろう。患者の無意識のうちに病を治すのだ。と、偉そうに吠えておこう。

直前期は心身の健康の維持が第一。それが何ごとにも勝る対策。常に心身の健康を優先していれば、当日、最大限の力を発揮するはずだ。皆の、健闘を祈る！

ムーヴでの私の記事に対して相反するご意見をお持ちの保護者の方や学習塾の先生方もいらっしゃるだろう。あくまで鶴亀の意見であり、世を否定するような姿勢ではないのでお許しいただきたい。受験生はこれまでお通いの塾の先生に従っていただくのが基本だと思う。特に「傾向と対策」は各先生が方針やノウハウをお持ちのはず。よくご相談を。

鶴亀算太郎